

＝ 支部長就任挨拶 ＝

中部支部長 宿里 勝信

平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震は、東北地方を中心として甚大な被害をもたらしました。わが国の歴史上、未曾有の大災害であると言われていています。被害に遭われました皆様に衷心よりお見舞い申し上げます。今後、地震や津波による建築物の被害



の調査・解析が進み、構造設計者の取組むべき課題が明らかになるものと思います。建築の構造設計を職能とする技術者集団として、社会の期待に責任をもって応えていかなければなりません。そのための中部支部の活動について述べたいと思います。

まず最近の主な活動について述べます。中部支部の良き伝統の一つに県・市等の各行政機関と協力した活動があります。昨年度も愛知県建築技術支援センターの構造計算プログラム審査能力向上講習事業への協力として「構造計算プログラムの特性比較講習会」が多数の参加を得て開催され、その後の反響も大なるものがありました。また愛知県建築住宅センターの構造設計者育成事業である「構造寺子屋」に関する活動では、鉄骨造編講習会への講師派遣と新たに始まった鉄筋コンクリート造編講習会のためのテキスト作成および講師派遣を行いました。さらに各地域の構造計算適合性判定機関や各機関における耐震診断・改修判定会への協力も積極的に行っています。構造設計の本質を理解したJSCA会員が精査し、調和のとれた良い建築を社会に送り出すことは意義深いことであり、社会の期待に応える活動そのものであると言えます。

次に本年度の活動について述べます。中部支部は、愛知、岐阜、三重、静岡、富山、石川、福井の七県の広範囲に渡り、総勢517名の支部会員、技術交流会および賛助会会員を有する技術者集団です。新たに選出された支部役員を中心に、建築学会の先生方や行政等の方々からのご指導を頂きながら会員のための活動に努めてまいります。各行政機関との協業についても、従来からの信頼を失うことなくさらに強

固な関係を築いていかななくてはなりません。また昨今の社会情勢の影響による疲弊した現状を打破するため、地域間の会員交流の推進を活発に行い、会員の元気あふれる行動を取り戻すことが肝要です。それが支部活動推進の原動力となると確信しています。昨年度からの課題であります構造設計者の活動基盤の整備の中で、とりわけ設計報酬の改善については現実問題として遅々として改善されていない状況にあります。さらに昨今の業務量の大幅な減少が会員の活躍の場を阻害しています。一朝一夕に課題の解決は困難ですが、会員全体の責任ある行動が社会環境を改善する契機となり、そこに団体としての活動の意義の一つがあると思います。

中・長期的な課題として、これからの支部を担う若き構造設計者の育成と会員増加への取組みがあります。若者が率先して集えるような運営を模索し、育成のための活動に取り組んでいきます。設計の業務環境の変化と共に構造設計の進め方も随分と変わってきています。構造計算ひとつにしても過去には先輩から直接手解きを受け、建物全体の挙動をいつも考えるように指導を受けました。全体と部分のバランスをとる絶妙な技術は、とうてい教科書だけでは学ぶことの出来ない情緒的な部分もあり、今後もこのような訓練が必要であると感じています。幸い中部支部は、多くの優れた構造設計者を有しています。新と旧がうまく交流し設計の勘所を学び伝え、構造設計の楽しさを次の若い世代に語り継いでいくことも大事な活動であると思います。時に先人の教えに想いを寄せ、学ぶことが大切です。若い会員の方に1981年9月号の「Structure No.1 創刊号」の構造家懇談会設立趣意書を紹介します。趣意書の「懇談会の将来像」の締めくくりに、「厳しく高く自戒し後進を育成しつつ、この職能に対する社会の評価と信頼をかちとり、将来、幾世期にも亘って地球上の人間の生活空間の構造を支えていくのが、この懇談会の究極の目標となるであろう」と次世代への願いと構造設計の職能に対する熱い思いを感じとることができます。

先輩方が構築された中部支部の歴史に活動の原点を置き、伝統を継承し、個人と団体の発展のための支部活動に取り組んでいきたいと思っています。中部支部会員の皆様のご協力・ご支援をお願い申し上げます。

愛知県農林会館新ビル

JAあいち経済連設計事務所 大和 俊輔
(株)山下設計 東京本社構造設計部 早瀬 元明

1. 建物概要

計画敷地は名古屋駅とテレビ塔とを結ぶ桜通りに面した名古屋の中心に位置する。

本計画は、計画敷地に建つ2棟のビルの建替え計画であり、県下JA関係団体が利用するオフィスビルである。JAの伝統と歴史を象徴し未来へと発展するイメージをもったデザインとして、ガラスカーテンウォールとPCリブにより縦方向に延びる端正な外観とし、名古屋メインストリート（桜通り）の都市景観を先導する建物としている。

計画建物は地下1階、地上14階建てで、地下1階と地上1階の間を柱頭免震とする免震構造を採用している。

環境への配慮として、可能な限り長期間に渡り外気を活用する空調システムを構築している。騒音や排気ガスの影響の少ない南側にハイブリッド空調機を設置し、「換気モード」「ハイブリッドモード」「外気冷房モード」「一般空調モード」の各モードを外気の状態に応じて自動的に選択し、エネルギー消費を最小に抑制している。また、14階中庭を屋上緑化することにより、ヒートアイランドを抑制するとともに、14階の利用者に良好なオフィス環境を提供する計画としている。



図-1. 建物外観

建設地：愛知県名古屋市中区錦三丁目305他6筆
建築主：社団法人 愛知県農林会館
設計：JAあいち経済連設計事務所、(株)山下設計
施工：清水建設株式会社 名古屋支店
建築面積：1,395.83㎡
延床面積：19,918.08㎡
階数：地上14階、地下1階、塔屋1階
軒高：65.72m

2. 構造計画概要

基準階平面は事務室である外形約47m×21mの長方形の執務空間であり、南側に29m×7mのコア部分が付属している。スパンはX方向が外端9.0m中央7.2m、Y方向がコア部8.1m執務空間19.1m、階高は1階で6.4m、2～12階で4.1m、13階で4.7m、14階で5.7mである。

基礎形式は、設計GL-35m以深に分布している海部・弥富累層の砂礫を支持層とする杭基礎（場所打ち鋼管コンクリート杭・アースドリル拡底工法）とした。

極めて希に発生する地震動に対しても建物の安全性を保持し、損傷を最小限に抑えることを目的として免震構造を採用した。免震装置は地下1階柱頭に設置し、地上の建物全体を免震化する。免震装置は、建物の軸力を支持し、且つ設置面積をコンパクトにするため、角型の鉛プラグ入り積層ゴムを採用した。建物を長周期化すると共に、適切な減衰性能を設定することにより、地震応答の低減を図る。免震装置の配置は、免震層の偏心が極力小さくなるようにバランス良く配置した。

上部構造は、鉄筋コンクリート造とするが、梁間方向の大スパン梁には鉄骨梁を組み合わせたハイブリッド梁を採用した。平面的バランスを確保すること、免震装置に地震時の引抜力を生じさせないこと、等を目的として、架構は純ラーメン形式とし、壁はすべて乾式工法とした。また、東西両妻面には耐震間柱を配置し、建物全体の剛性を確保した。また、7階床梁までをPC鋼線を配したプレストレストコンクリート梁を採用し、当該部1階は図示のようにブレースを設け、柱の無い開放的なエントランス空間を確保した。



図-2. エントランス内観

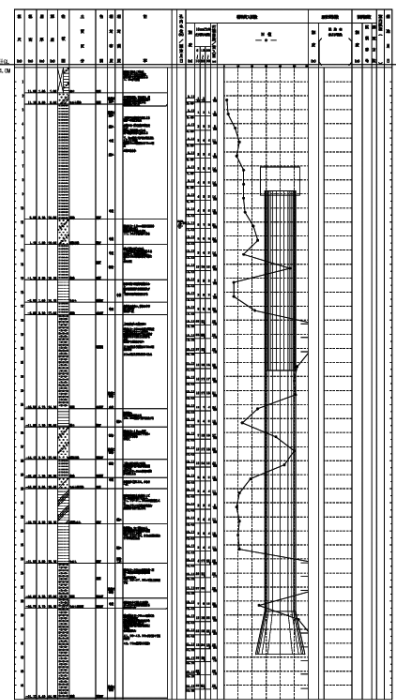
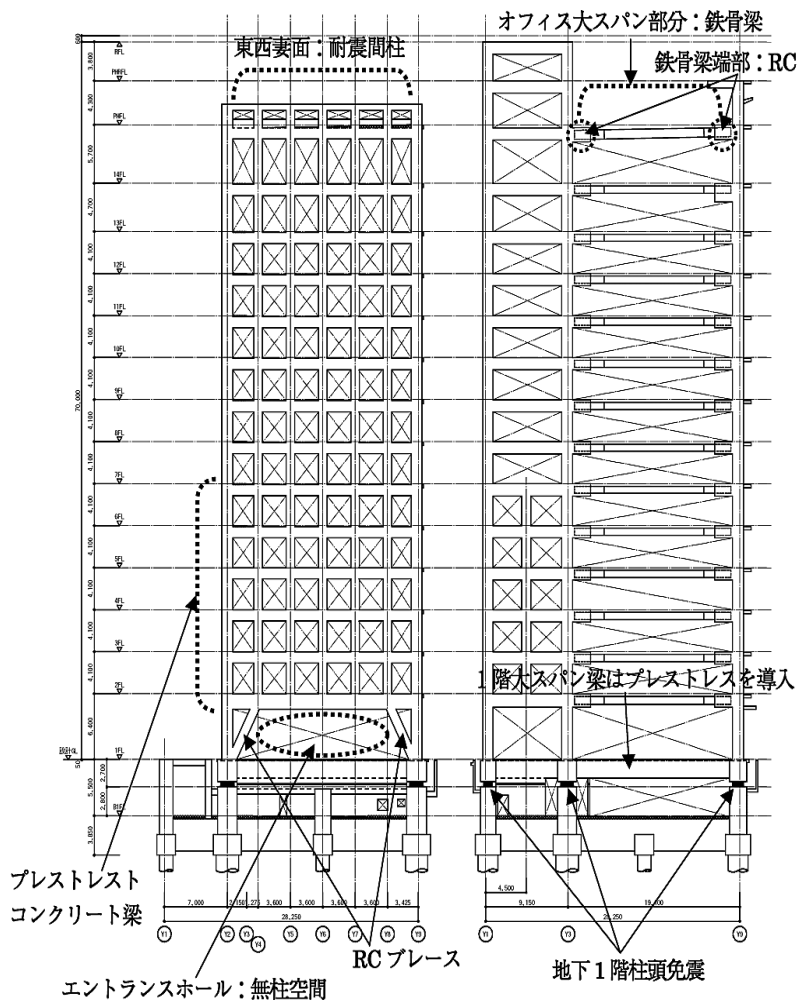


図-5.地盤・杭概要図

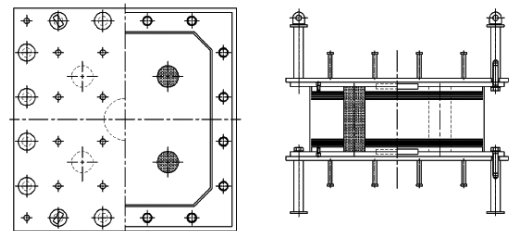


図-6.角形鉛プラグ入り積層ゴム

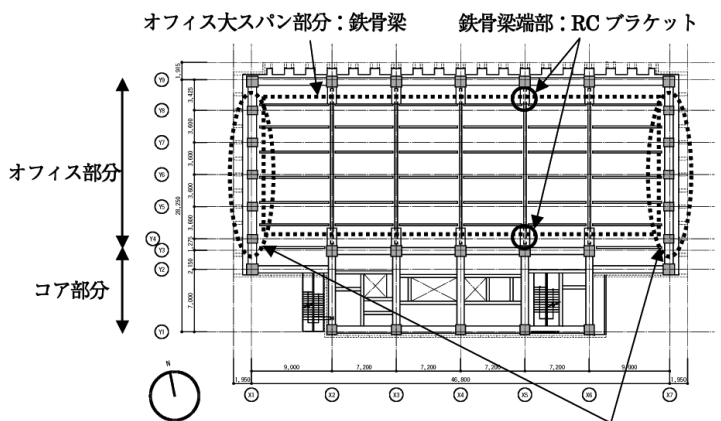


図-3.架構概要図



写-1.鉄骨建て方状況

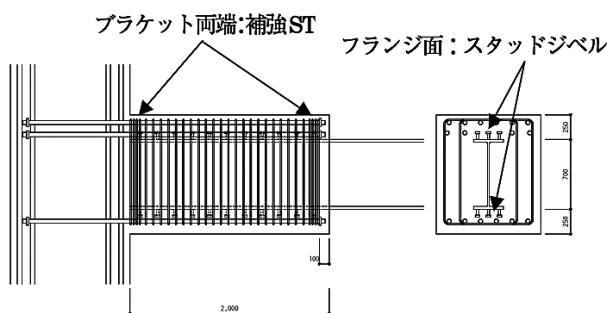


図-4.RC ブラケット詳細図

3.施工概要

本建物の特徴である大スパン部分鉄骨梁については、梁端部に仮設柱を設け、建て方を行い、層毎のコンクリート打設と共にRC部分と一体化させる方法とした。仮設柱は端部を高力ボルト取り合いとし、上階への転用可能な計画とし、効率よく施工を行っている。

平成21年4月着工し、平成23年10月の竣工に向けて、現在順調に工事が進捗している。

2011年度 JSCA中部支部総会報告

2011年度JSCA中部支部総会が5月17日（火）、名古屋市東区のメルパルクにて開催され、出席者40名・委任状236名の計276名により、本総会は成立しました。審議に先立ち、議長に三重部会副部会長の服部氏を選出し、下記の議案を審議いたしました。

- 議案1：2010年度支部事業報告の件
- 議案2：2010年度支部収支決算の件
- 議案3：支部役員改選の件
- 議案4：2011年度支部事業計画の件
- 議案5：2011年度支部収支予算の件

各議案とも慎重審議の結果、満場一致で承認されました。本年度支部事業計画の議案4に関しては、総会に出席されなかった会員諸氏にその骨子を報告いたします。

本年度は支部役員の改選の年であり、新支部長に選任された宿里新支部長より、以下の支部事業計画の説明がありました。

1) 支部、技術交流会および賛助会会員の皆様が、元気あふれる活動をする事が重要であり、それが支部活動推進の原動力となります。そのために地域間の会員交流の推進を活発に行うと共に、研鑽の支援活動を推進していきます。

2) 中部支部の良き伝統の1つに、行政等各機関と協力した活動があります。各地域の構造計算適合性判定機関や各協議会等への会員派遣、参画は勿論のこと、建築学会の先生方や行政等の方々からのご指導を頂きながら、会員の研鑽支援にも努めていきます。

3) 構造設計者の活動基盤整備の中で、特に設計報酬の改善については、現実問題として遅々として改善されない状況にあり、さらに昨今の業務量の大幅な減少も、短期的には深刻な問題であります。これら構造設計者の処遇改善についての活動も、集団が一丸となって粘り強く取り組むべき課題です。

4) 中・長期的な重要課題として、これからの中部支部を担う若き構造設計者の育成があります。若者が率先して集えるような支部運営を模索し、育成のための活動にも取り組んでいきます。

総会終了後の第2部では、一般社団法人宇宙エレベーター協会副理事長青木義男様（日本大学理工学部教授）をお招きし、「宇宙太陽光発電と宇宙エレベーター『人類最大の構造物をつくる理由』」と題して、約2時間にわたり記念講演を戴きました。

宇宙エレベーターとは、「軌道エレベーター」とも呼ばれ、地上と宇宙をエレベーターでつなぐ、これまでにない夢の輸送機関です。かつては、夢物語として受け止められていましたが、理論的には十分実現可能なものであり、近年の技術発展によって手が届く域に到達しつつあるようです。



青木義男副理事長講演風景

原理は簡単な物理法則で説明できます。地球を周る人工衛星は、地球の重力と衛星が外に飛び出そうとする遠心力がバランスして高度を維持しています。このうち、高度約36,000kmを周る衛星は、周期が地球の自転と同じで静止衛星と呼ばれています。

この静止衛星から地上に向けケーブルを垂らすと同時に、その反対側（地球の向きと逆側）にもケーブルを延ばし、重心位置を一定に保つことにより、静止軌道の高度を保持して周り続けることが可能になります。この地上に向けケーブルを延ばすことと、その反対側にケーブルを延ばすことを繰り返すと、いつかはケーブルが地球に到達し、地球と宇宙を結ぶ1本の長いケーブルが出来上がります。このケーブルに昇降機を取り付け、人や物を輸送できるようにしたものが、宇宙エレベーターです。本日の講演は、この宇宙エレベーターの実現性と解決しなければならない問題、そして現在行われているロケット輸送とのコスト比較などを中心に夢を語っていただきました。

記念講演の後、引き続き催された懇親会には、来賓、正会員、賛助会員等多くの方々に参加していただきました。宿里支部長の挨拶、ご来賓の方々のご祝辞の後、本日記念講演を賜りました青木副理事長様のご発声で乾杯し、和やかなうちに閉会となりました。

最後に、本総会の開催にあたり多大なご尽力をいただいた事業委員会各位にこの紙面をお借りして御礼申し上げます。

（文責 広報委員会）



懇親会風景

中部支部 平成23年度組織構成

支部役員会

本会理事 宿里 勝信 (竹中工務店)
 支部長 宿里 勝信 (竹中工務店)
 副支部長 石井 和彦 (日総建)
 山崎 暢 (清水建設)
 支部幹事 池尾 昭浩 (池尾設計事務所)
 大橋 智樹 (大成建設)
 小田 一之 (O.D.A)
 加藤 工匠 (浦野設計)
 河野 秀生 (大林組)
 小西 立行 (青島設計)
 二宮 利治 (日建設計)
 羽入田 茂 (鹿島建設)
 芝川 豊 (ジーツープラン)
 南 宣臣 (ピース設計)
 前田 嘉彦 (共栄建築設計事務所)
 永田 芳博 (永田構造デザイン)
 支部監査 伊東 正 (竹中工務店)
 服部 明人
 顧問 大塚 一三 (河合松永建築事務所)
 藤田 良能 (飯島建築事務所)
 事務局 小川 浩信 (伊藤建築設計事務所)
 土田 崇仁 (伊藤建築設計事務所)

技術交流会

会長 前原 勝明 (旭化成建材)
 副会長 今井 信洋 (フジモリ産業)
 同上 中西 広始 (縣鉄工)

技術委員会

委員長 二宮 利治 (日建設計)

計画部会

主 査 小坂井 正 (飯島建築事務所)

鉄鋼系部会

主 査 横井 義彦 (清水建設)

コンクリート系部会

主 査 牧野 章文 (竹中工務店)

地盤系部会

主 査 河野 秀生 (大林組)

木質系部会

主 査 中野 稔久 (中野建築構造設計)

耐震診断・行政懇談会担当

担 当 加藤 工匠 (浦野設計)

事業委員会

委員長 池尾 昭浩 (池尾設計事務所)
 副委員長 末吉 直樹 (大林組)
 委員 伊東 正 (竹中工務店)
 大野 勝由 (野口建築事務所)
 川端 憲敏 (建物蔵部)
 斎藤 正 (三菱地所設計)
 下野 耕一 (竹中工務店)
 田中 初太郎 (清水建設)
 七瀬谷 茂 (ストラクチャー・ナナ)
 橋本 幸治 (日建設計)
 盛本 智夫 (盛本構造設計事務所)
 山崎 暢 (清水建設)
 山本 享明 (名古屋女子大学)

広報委員会

委員長 大橋 智樹 (大成建設)
 副委員長 小阪 淳也 (日建設計)
 委員 畔柳 歩 (竹中工務店)
 土田 崇仁 (伊藤建築設計事務所)
 山崎 俊一 (清水建設)

岐阜部会

部会長 芝川 豊 (ジーツープラン)

三重部会

部会長 南 宣臣 (ピース設計)

北陸部会

部会長 前田 嘉彦 (共栄建築設計事務所)

静岡部会

部会長 永田 芳博 (永田構造デザイン)

構造評定から防災評定、そして耐震判定業務まで。
 質の高いワンストップ・サービスをご提供いたします。



民間会社では国内初の「指定確認検査機関」として建築確認業務を開始して以来、すでに多くのご支持と厚い信頼をいただいている日本ERIは、高度な構造に関する業務においても多様なニーズにお応えいたします。幅広い業務フィールドを利用した、迅速なワンストップ・サービスをぜひご活用ください。

1. 構造評定業務 (高層評定・免震評定・構造評価)
2. 防災評定業務
3. 耐震判定業務

日本ERI株式会社 評定部 TEL 03-5775-2405 FAX 03-5775-2441
〒107-0052 港区赤坂 8-10-24 住友不動産赤坂ビル 4F <http://www.j-eri.co.jp>

日本ERI株式会社 名古屋支店 TEL 052-589-8771 FAX 052-589-8773
〒450-0002 名古屋市中村区名駅 3-25-9 堀内ビル 7F

技術委員会 平成23年度活動方針

技術委員長 二宮 利治

この度、技術委員長を拝命いたしました二宮でございます。これまではJSCA中部の会員としては、どちらかというと受身での参加が多かったの得意な大役に不安はありますが、会員の皆様のご指導を道しるべとして、皆様にとって実りある活動が出来るよう精一杯尽力する所存でございますので、よろしくお願いいたします。



昨年の技術委員会は、服部前委員長のもと、「構造技術者としての技術の研鑽」をメインテーマとし、下記の4項目を基本方針として活動を行いました。

1. 講習会・見学会の実施
2. 学会会員との交流
3. 建築行政関係者との交流
4. JSCA 活動のPR

計画部会、鉄構系部会、コンクリート系部会、地盤系部会、木質系部会の各部会による見学会・講習会に加え、愛知県建築技術支援センターの若手構造技術者の育成を目的とした「構造寺子屋」RC造編への協力を行うなど活発な活動ができたと思っています。

今年の技術委員会においても、前述のメインテーマ、基本方針を「長期的活動」として継承し、各部会を中心に地方

部会との連携を踏まえた見学会・講習会の開催、学識経験者、行政担当者との交流を盛んにし、成果を発信してゆきたいと考えています。

また、今年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震の甚大な被害に鑑み、「大震災の教訓を如何に構造技術に生かすか」を「短中期的活動」として取り上げてはどうかと考えています。

東北地方太平洋沖地震においては、これまでにない大きな被害が広範囲にわたって発生しています。また、地震被害を覆い隠すような津波被害が発生しています。今後、耐震設計はもとより沿岸部などでは津波に対する設計が求められると思われます。津波を考慮した構造設計とはどのようなものか、われわれは準備しておく必要があります。水圧に対してはどうする、漂流物に対してはこう考えるなど…。

津波で転倒したRC造建物の底面に杭がくっついている写真を見ました。地盤の液化化、津波の横力や浮力などがどのように作用すればそういう状況になるのか、考えないといけないと思います。地方自治体の津波対策ビルの指定の動きも始まっています。

津波についてはもとより構造技術者だけで解決できる問題ではありませんが、研究者を始め多くの技術者が暗中模索状態である中、JSCA会員は先頭に立って答えを見つけていく気構えで望む必要があると思います。

事業委員会 平成23年度 活動報告と活動方針

事業委員長 池尾 昭浩

今年度より新しく事業委員長を務めることになりました池尾昭浩です。よろしくお願いします。

本年度も昨年度同様、JSCA庭をはじめ、見学会・研修会等を事業委員会の力を合わせて行っていききたいと思います。

特に、JSCA庭におきましては毎回定員を超える参加希望者があり今後も皆様の期待に応えられるような魅力ある企画を考えていきたいと思っています。また、講演終了後に行っている懇親会では講師の方を中心に講演の時には聞けなかったお話を聞いたり、参加者の方々のコミュニケーションを図る場として活用して頂いていると思っています。

見学会につきましては、まず7月に「知の拠点先導的中核施設」の現場見学会が行われますが、その性格上、地域と時期を限定されるため、なかなか多くを開催できませんがこの地域にある興味有る建物を探して随時行っていききたいと思います。

研修会等につきましては、タイムリーな話題を模索し、JSCA庭とは違った形でより多くの方々に参加していただけるような企画をしていきたいと思っています。



また、毎年行われる年次総会・新年互礼会での講演会では、普段の実務に直結した話題から構造とは離れたいつもは接しないような話題までいろいろと興味を引く講演会を行っていききたいと思います。

事業委員会で行う行事を一層魅力有るものとするためには、会員の皆様のご意見を伺っていくことが大切なことだと思っています。

多くの方々にご参加頂ける行事を数多く開催できるようにしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

広報委員会 平成23年度活動方針

広報委員長 大橋 智樹

前期に引き続き、今年度広報委員長を務めさせていただきます大橋でございます。よろしくお願いします。

広報委員会は、①中部地区の広報紙「JSCA中部」の発行、②中部支部のホームページ再構築の二つの大きな柱を中心に活動を行っております。



広報誌である「JSCA中部」は、1985年に第1号（当時の名称は「構造懇中部」）が発行され、その後、四半世紀にわたり中部地区のJSCAの活動を発信し続けた、息の長い広報誌です。

現在は、中部地区の建物の設計例、現場紹介、各委員会活動報告、講習会・見学会の報告等を中心に掲載、年4回の発行をおこなっています。

会員の皆さまに興味を持っていただけるよう紙面づくりに努めてまいりましたが、よりよい誌面作りのため皆さまにご協力いただければと思うところもあります。例えば、設計例や現場紹介ですが、どうしても愛知県地区を中心とした紹介が多く、情報が偏りがちになっています。より多くの会員の皆さまに興味を持っていただくため、より広範囲の地域の、また多岐にわたる紹介を取り入れてゆければと考えております。是非、情報を広報委員会または、JSCA中部事務局までお寄せいただけますよう、ご協力を

お願いします。

中部支部のホームページ再構築につきましては、前期に引き続き取り組み中です。

近年の情報入手方法としてホームページは重要な媒体であることは言うまでもなく、特に学生や若い世代ではインターネットを中心とした情報収集を行うことが多いようです。次世代を担う構造技術者に、JSCA中部への参加をしていただくためにもホームページの再構築は重要な課題だとの考えの下、リニューアル作業に取り組んでまいりました。早急に実現するよう努力したいと思います。

最後になりますが、広報誌、HPへの執筆はその都度、会員の皆さまにお願いしており、紙面充実は、ボランティア活動の成果そのものです。ご多忙の中、原稿執筆、取材のご協力を快く引き受けていただきました会員の皆様に、この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。また、広告掲載の面から広報協賛の支援をいただいております技術交流会・賛助会員の各社の皆様にも改めて御礼申し上げます。

これからもJSCAの活動を広く発信し理解いただけるよう、誌面、HPの充実に心がけて行きたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

耐震診断・行政懇談会 平成23年度活動方針

耐震診断・行政懇談会担当 加藤 工匠

前期に引き続き今期も「耐震診断・行政懇談会担当」を務めさせていただきます加藤工匠（たくみ）です。

耐震診断関係は直接業務を担当している訳ではありませんが、行政への協力として会員の皆さんに協力して戴いていただきます耐震診断・サポートセンター・構造寺子屋（構造技術者養成）・名古屋市栄地下街の「名古屋市住まいの窓口の『名古屋市耐震相談窓口』相談員」等の活動が該当します。



一方、行政懇談会は建築確認審査等を行う行政機関とJSCA中部支部の意見交換を行う場として「愛知県・名古屋市・愛知県建築住宅センターおよびJSCA中部支部」の間で年1回定期的に開催している会合です。

2007年の建築基準法改正以来、建築確認の厳格化・法適合性判定の施行・構造設計一級建築士制度の開始・確認審査の円滑化・建築確認手続き運用改善等が施行されました。

今年も「確認手続きの更なる改善」、「法適合性判定対象の緩和」など実務に係わる規定が少なからず行われています。また、今年3月11日の東日本大震災での津波被害・液状化被害・天井外壁ガラスの落下等は、建築行政および

構造設計者に想定外の事象への対応を再考させるとともに、法・設計基準等に影響を及ぼすものと思われます。

今年の行政懇談会は「直近の法改正事項に係る問題や東日本大震災など」について意見交換する予定です。今年度も8月上旬に開催を予定しています。

会員の皆さんから意見交換の要望等がありましたら、小生または事務局まで連絡していただきますようお願いいたします。

中部支部は行政機関と最も良好な関係を有している支部の一つです。皆さんからのご意見を戴き活性化を図りたいと考えておりますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

第7回JSCA庭渡辺博文氏講演「地盤設計における留意点について」

(株)盛本構造設計事務所 中島 陽子、森 祐哉

平成23年6月10日(金)に、株式会社大和地質で長く地盤調査などの仕事に携わられている渡辺博文氏の講演会が、第7回JSCA庭として開催されました。「地盤設計における留意点について」と題し、土質分類とその特性、液状化判定法とその評価について、幾つかの文献での解釈の違いといった内容でした。以下に渡辺氏の御講演の概要を紹介させていただきます。

通常、構造設計においてボーリング柱状図に記述された内容を基に砂質土か粘性土かに大別して支持力の算定や液状化の検討を行っています。しかし、実際の土には砂と粘土の中間的な性質を示すものが多く見られ、このような中間土は地盤調査の担当者によってボーリング柱状図への土質区分の記述が左右されてしまうとのことでした。構造設計者が砂質土か粘性土かの区別に注意する必要があるとのことでした。

また、最近では東日本大震災の被害の中で液状化が社会的な問題として注目されたことにもふれ、液状化が起こる要因として何が大きく影響するのかというところについて、実際の地震のデータを基に説明していただきました。

地震の最大加速度、振動継続時間など様々な要素のグラフによる内容はとても難しいものでした。液状化の簡易判定式として「建築基礎構造設計指針2001」と「道路橋示方書・同解説2002」での検討結果の比較例を基に、評価の妥当性についても丁寧に説明して頂きました。

今回の地震による液状化の被害は大きいこともあり、会場からは「今後、液状化の判定方法や基準が改定されるの

ではないか」、「振動継続時間が長ければ、再び液状化する可能性は低くなるのか」、「自治体などから公表されているハザードマップはどの基準で作成されているのか」、「ハザードマップとボーリング柱状図からの検討結果の違いについては」といった質問が多く挙げられました。構造設計に携わる者にとっては、大変興味深い講演でした。

基礎というのは人前に現れることはないが、建物としては非常に大切な部分であるので、構造設計の仕事で慎重な判断をすることの重要性を改めて感じさせられました。



◀講演される渡辺氏



講演会の様子▶

第46回 JSCA中部ゴルフコンペ開催

JSCA中部ゴルフコンペが、6月18日(土) ベルフラワーカントリー倶楽部に開催されました。東日本大震災後のコンペとなり、開催が危ぶまれましたが、皆さんの賛同もあり、28名(うち女性2名)ものご参加をいただき、無事開催することができました。

平年よりかなり早い梅雨入りのため、後半小雨が降り出しあいにくの天気となりましたが、皆さん和気あいあいとラウンドを満喫していました。

上位ベスト3の成績は以下の通りです。

優 勝 前原 勝明(旭化成建材(株))

準優勝 村山 松二郎

3 位 兼井 常元(オリエンタル白石(株))

準優勝の村山さんはパーキングプロ(株)を退社後、現在ゴルフ修行中?以前より上位に顔を見せていましたが、還暦を過ぎここに来て優勝者と同ネットの準優勝です。

最近、若手の参加者も増えてきているものの、まだまだ量的にこの年代に押されております。同じような仕事をしている仲間が会社の垣根を越えて懇親できる会を益々発展させるため、若手の更なるご参加をお待ちしています。



最後に、今回大会は震災復興の意味合いもあり、参加者の皆様より義援金を募り、¥50,000を中日新聞社会事業団に寄付させていただきましたことを報告します。